



島根労働局発表
平成26年3月27日

担	労働基準部 健康安全課
	健康安全課長 吉見 友弘 主任地方産業安全専門官 白名 弘
当	TEL 0852-31-1157

平成25年島根県内における労働災害発生状況

島根労働局（局長 坪田一雄）は、島根県内における平成25年の労働災害の発生状況について、下記のとおり取りまとめました。

1 死亡労働災害発生状況

(1) 労働災害による死亡者数は12人であり、前年に比べ5人の増加となった。

【別添 No.1】

(2) 死亡者数を業種別にみると、建設業が4人、製造業が3人、その他の第三次産業が2人、鉱業、道路貨物運送業、その他事業が各1人となっている。

【別添 No.2、3】

2 休業4日以上労働災害発生状況

(1) 休業4日以上労働災害による死傷者数は728人であり、前年に比べ21人の増加となった。

【別添 No.1】

(2) 死傷者数を業種別にみると、林業で50人(6人減)、社会福祉施設で68人(4人減)、製造業で141人(3人減)となり死傷者数が減少した一方、建設業で127人(13人増)、小売業で96人(11人増)と全体として死傷者数が増加した。【別添 No.2】

3 業種別災害発生状況の推移【別添 No.4】

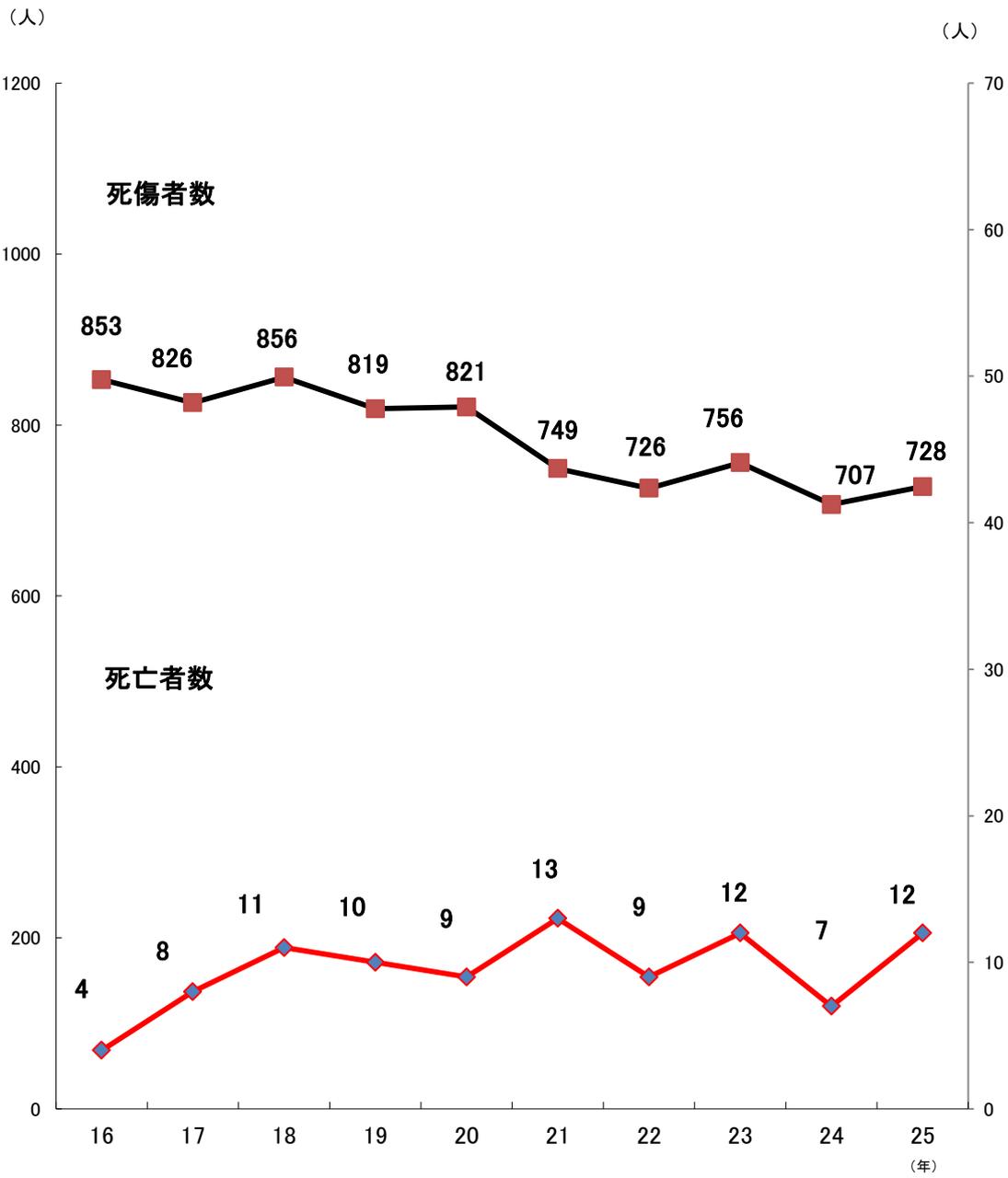
(1) 製造業は平成24年と比べて減少し、長期的に減少傾向にある。

(2) 小売業は3年連続で増加している。

(3) 林業、道路貨物運送業は増減を繰り返しているが、長期的には若干の減少傾向にある。

島根労働局では、この状況を踏まえ、労働災害のさらなる減少を目指して第12次労働災害防止計画(平成25年度から平成29年度までの5カ年計画)に基づき、災害が増加している小売業等に対する集中的な指導や、建設業においては発注者及び建設関係団体と連携した労働災害防止のための取組を推進することとしています。

年別労働災害発生状況の推移



業種別労働災害発生状況

年 No.2

業種	平成24年		平成25年		増減数		死傷者数の増減率 (%)
	死亡者数	死傷者数	死亡者数	死傷者数	死亡者数	死傷者数	
製造業	1	144	3	141	2	▲ 3	▲ 2.1
鉱業		2	1	2	1	0	0.0
建設業	2	114	4	127	2	13	11.4
土木	2	43	3	46	1	3	7.0
木造建築		17		30	0	13	76.5
その他の建築		40	1	37	1	▲ 3	▲ 7.5
その他		14		14	0	0	0.0
運輸交通業	1	64	1	56	0	▲ 8	▲ 12.5
道路貨物運送		47	1	45	1	▲ 2	▲ 4.3
その他の運輸	1	17		11	▲ 1	▲ 6	▲ 35.3
林業	1	56		50	▲ 1	▲ 6	▲ 10.7
伐木・搬出		28		25	0	▲ 3	▲ 10.7
造林・その他の林業	1	28		25	▲ 1	▲ 3	▲ 10.7
第三次産業 ^{※1}	2	300	2	328	0	28	9.3
小売業	1	85		96	▲ 1	11	12.9
社会福祉施設		72		68	0	▲ 4	▲ 5.6
飲食店		17		20	0	3	17.6
その他の第三次産業	1	126	2	144	1	18	14.3
その他 ^{※2}		27	1	24	1	▲ 3	▲ 11.1
合計	7	707	12	728	5	21	3.0

※1 第三次産業とは、全産業のうち、製造業、鉱業、建設業、運輸交通業、貨物取扱業、農林業、畜産・水産業を除くもの。

※2 その他とは、貨物取扱業、農業、畜産・水産業。

1	1月	建設業	チェーンソーを使用して立木の伐倒作業に従事していたが、木の切株付近に倒れているところを、一緒に現場へ入場していた同僚労働者に発見されたもの。
2	3月	運輸交通業	被災者が、高速道路のパーキングエリアに停車したトラックの運転席後部のベッドで横たわっているところを発見されたもの。
3	4月	貨物取扱業	接岸しているコンテナ船を離岸させるために、被災者の他、同僚労働者1人が乗り込んだ小型船で曳航していたが、コンテナ船に引っ張られ転覆した。甲板にいた同僚は海に飛び込み軽傷を負い、操舵していた被災者は、海中で発見されたが死亡していたもの。
4	5月	旅館業	被災者は、同僚労働者1人と、駐車場付近にある河川の斜面に自生する立木にはしごを掛けて上り、チェーンソーで伐採作業を行っていたが、被災者から離れたところで同様の作業をしていた同僚が被災者のチェーンソーの音がしなくなったことから被災者の作業箇所に行き、約7m下の河川でうつ伏せになって倒れている被災者を見つけたもの。
5	5月	機械器具製造業	ローラーコンベヤ用の搬送ローラーの構成部材を組合せ、その接触する円周部を直立させた状態で溶接するために、自家製の吊治具により玉掛けし、天井クレーンで吊上げ移動中、吊荷が吊治具から外れ、しゃがんだ状態でクレーン操作を行っていた被災者に直撃したもの。
6	6月	建設業	会社資材置場において、ロープで結束した塩ビ製パイプをドラグ・ショベルで吊上げて運搬作業を行っていたところ、ドラグ・ショベルの履帯が溝に落ちて横転し、運搬の補助作業を行っていた被災者がその下敷きとなったもの。
7	6月	機械器具製造業	被災者は、休日に事業場内の機械にトラブルが発生したことを社内メールにより確認し、同日の朝、工場内で機械のトラブル解消を行ったが、翌日の朝、事業場内で倒れているところを社員に発見されたもの。
8	7月	建設業	被災者がハンドガイド式ローラーを運転して移動中、後進してきたダンプトラックに背後から激突され、転倒した際にダンプトラックの左後輪に頭部を轢かれたもの。
9	7月	建設業	集じん装置の外壁修理作業において、被災者が足場を溶接棒の入ったペール缶と溶接機の電源コードを持って移動中、躯体と足場板の間の26cmの隙間から約24m下の地面に墜落したもの。
10	8月	機械器具製造業	養豚場で豚の排せつ物の分離装置の修理作業を行っていたところ、近くにあった深さ約3.8mの浄化槽に転落し、浄化槽に汚水が約3.5mたまっていたため、溺れたもの。
11	9月	教育・研究業	駐車場内の立木の枝打ち作業を1人で行っていたところ、仰向けに倒れているところを発見されたもの。
12	10月	採石業	採石場において、ドラグ・ショベルを運転し、地山表土の除去作業を行っていたが、転落・横転したドラグ・ショベルの脇で倒れているのを同僚に発見されたもの。

年別・業種別労働災害発生状況

